# Win10標準機能で便利なもの

## Game Barを使った画面キャプチャ

１　キャプチャしたい画面を選択

２　Win+GでGame Barを表示

３　録画ボタンを押す（右図参照）

４　デフォルトではC:\Users\｛ユーザー名｝\Videos\Capturesに.mp4ファイルが保存される。

参考：<https://recorder.easeus.com/jp/screen-recording-tips/windows-10-screen-recorder.html>

補足：トリミングはアプリ「フォト」でできる。

## 切り取り&スケッチ

あとでペイントなどで編集する事なく、任意の範囲のスクショを撮る事ができる。

Shift + Win + S で機能を起動 -> 画面が薄暗くなるので、マウスをクリックダウンしたまま任意の範囲を選択。

クリックを離すとクリップボードに選択範囲が保持される

# 便利アプリ

## QTTabBar

QTタブバー、QTコマンドバー　を表示させる

## CCeaner

PC内の不要データを自動削除

## WPBF

右クリック→プロパティ

POPサーバー ：pop3 pop.m-tec-m.co.jp

ユーザー名 ：\*\*\* @m-tec-m.co.jp

パスワード ：メールのパスワード（紙に記載）

起動時にパスワードを確認：チェックしない　起動毎にパスワードを必要とするか　の意

自動起動も設定しておく　場所：C:\Users\[ユーザー名] \AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup

※WPBFはSSL通信に対応していないのでHotmailなどはStunnel とOpenSSL などで対応する。

情報元：<https://ameblo.jp/zabardast/entry-11520860522.html>

## WinSCP

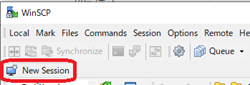
概要

SCPなどのファイル転送を行うGUIソフト

対応プロトコル：FTP、FTPS、SFTP、SCP

公式サイト：<https://winscp.net/eng/docs/lang:jp>

操作

・NewSession（右図参照）> New Site

接続設定を行う：

File protocol:SFTP

Host name:

User name:

> Save

「Login」ボタンでログインできる。

補足

プロトコルSFTPで接続できてもSCPでは接続できない事がある（2023-10-23）

# OS設定のメモ

## デフォルトアプリの設定

設定 → アプリ → 既定のアプリ：下の方の「ファイルの種類ごとに既定のアプリを選ぶ」（10秒ほどかかる）

## アンインストールプログラムのレジストリ

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall

※検索ができるので、DisplayName を先に確認しておく

## 自動起動

### 概要

大きく

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 実行レベル |  |
| スタートアップ | ユーザー | 動作が不安定。 |
| タスクスケジューラー | ユーザー／管理者 | ≒cron |
| サービス | 管理者 | ちょっとめんどくさい |
| レジストリ | 管理者 | かなりめんどくさい |

資料

<https://mymanfile.com/?p=2165>

### スタートアップ

タスクマネージャー → スタートアップ

有効／無効だけならここで変更できる

### スタートアップ（フォルダ登録）

以下の場所にショートカットを作成：

ユーザー独自のもの

C:\Users\[ユーザー名] \AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup

システム全体（Windowsサーバーなどの場合）

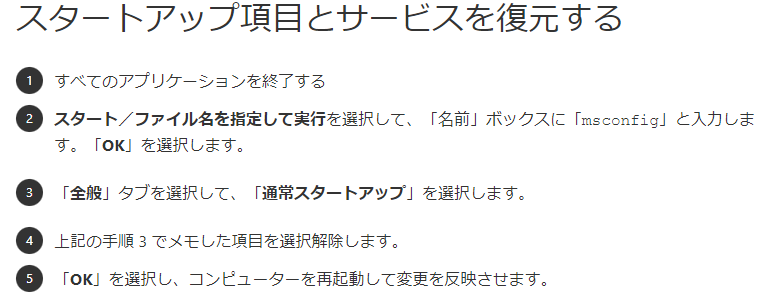
C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\StartUp

ファイルエキスプローラーのアドレスバーで 以下のように入力してもよい

shell:startup ユーザー独自のもの

shell:Common Startup システム全体のもの

Windowsサーバーの場合はこの設定が必要？



### タスクスケジューラー

実行方法

以下のどちらか

・Schtasks.exe

。・スタート → Windows 管理ツール → タスク スケジューラ

・ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する

### レジストリ

以下に自動起動の設定がある

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services

値：Start [ 0x0=Boot; 0x1 = System ; 0x2=Automatic; 0x3 = Manual; 0x4 = Disabled ]

### サービス（cmd；sc.exe）

#### create

sc [¥¥マシン名] create ＜サービス名＞ [オプション]

オプション

start= {boot \| system \| auto \| demand \| disabled \| delayed-auto}

displayname

#### delete

sc.exe delete <サービス名> # サービスの削除(cmd)

#### description：説明を追加

sc description TestService1 "This is the description of the service.."

### サービス（power shell）

#### 概要

# サービスの登録　補足：cmdのscコマンドの方が成功しやすい

New-Service -Name "MyService" -BinaryPathName "C:\src\MyService.exe"

# サービスの開始

Start-Service "MyService"

# 今登録したサービスを確認する

Get-WmiObject win32\_service -Filter "name='MyService'"

installutil サービスに登録するファイル名

Stop-Service -Name <サービス名> # 停止

Get-Service -Name <サービス名> # サービスの状況を見る

Restart-Service -Name <サービス名> # 再起動

Set-Service -Name <サービス名> -StartupType Manual # 起動方式の変更

サービスの削除だけは、cmdのscコマンドに頼らざるを得ない。PowerShell 6 以降であればRemove-Serviceコマンドが使える。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/framework/windows-services/how-to-install-and-uninstall-services#uninstall-using-powershell>

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| オプション名 | Start | Set | 概要 |
| DisplayName |  |  | DisplayName "Test Service" |
| StartupType |  |  | StartupType Manual |
| Description |  |  | Description "This is a test service." |
| DependsOn |  |  | 依存するサービス名  機能はLinuxとほぼ同じと思われる |

参考：WinSW

### サービス（python）

自作サービスの作成。Python版。

python my\_module.py --startup delayed install

python my\_module.py start // サービスの開始

python my\_module.py stop // サービスの停止

python my\_module.py remove // サービスの削除

問題点として、これではvenvなどの仮想環境の起動ができない。

2023-02-15追記　workspace/venv/bin/python3 my\_module.py start とすればよいのでは？

### サービス（WinSW）

別名：Windows Service Wrapper （Java Service Wrapper への対抗らしい）

#### 概要

ディレクトリ構成

myproject

├ myservice.xml 実行ファイルと同名にしておく

├ myservice.exe <https://github.com/winsw/winsw/releases/>よりDLして名前変更

補足：要管理者権限

下記urlより環境に応じた実行ファイル(.exe) をダウンロード。

自身のプロジェクトのベースディレクトリに配置する。

入手元<https://github.com/winsw/winsw/releases/>

[ xml （最低限）]

<service>

<id>myservice.service</id> # Start-Service などでこの名前を使うので、この値は結構重要

<name>MyService</name>

<executable>myapp.exe</executable>

</service>

インストール

[ command prompt ]

cd /d d:/workspace

myservice.exe install :: サービス登録

myservice.exe uninstall :: サービス削除

コンピュータの管理 → サービスとアプリケーション → サービスで確認も可能

実行

[ powershell ] （要管理者権限）

.\myservice.exe start # 「.\」が無いとエラーになる　停止はstop

Start-Service –Name myservice.service # これでも良い　停止はStop-Service

[ myservice.xml ]

arguments コマンドの引数

env 環境変数の指定

workingdirectory

「コマンドプロンプト」にて以下を実行（powershellではできなかった）

（参考）<http://sheeprogramming.iku4.com/Entry/424/>

#### 具体例

##### powershellスクリプト

ポイント

・対象のスクリプトはargumentsので指定

・対象のスクリプトを相対パスで書くときは「.\」が必要

例

<service>

<id>myapp.service</id>

<name>My Service</name>

<description>powershellのスクリプト</description>

<executable>powershell</executable>

<arguments>.\test.ps1</arguments>

</service>

#### リファレンス

##### 概要

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | データ型 | 概要 |
| executable | str | 本サービス稼働時に実行されるコマンド |
| arguments | str | executable実行時の引数 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | データ型 | 概要 |
| env | プロパティ | 本サービス稼働時に設定される環境変数 |
|  |  |  |
| depend |  | 本サービス |
| log | str |  |
| logPath | str |  |
| onfailure |  |  |
| prestart |  |  |
| poststart |  |  |
| serviceaccount |  | 実行ユーザーの情報 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

##### env

プロパティ

name

value

##### log

Working directory

<workingdirectory>C:\application</workingdirectory>

##### onfailure

プロパティ

action 値：restart

delay "5 sec"など。Secは付けなくても秒単位の指定しかできないっぽい

#### 資料

（xmlファイルの書き方）<https://github.com/winsw/winsw/blob/v3/docs/xml-config-file.md>

これはなにをするものだった？

sc.exe delete myservice.service # サービスの削除

### サービス（Register-WmiEvent）

## ブートローダー

C:\Windows\System32\bootrec.ext

bootrec /flxboot

bootrec /fixmbr

Rufus

Windows用のイメージライター。BIOS／UEFI両方共に対応可能。

## ODBC

ユーザーDSN 特定のユーザーアカウントに関連付けられたDNS

システムDSN コンピュータ全体で利用。

ファイルDSN DSNの設定情報をファイルとして保存する方法。ファイルを共有する事で別々のアプリケーションでDSNを共有できる

# Linux関連

## WindowsでサポートされているLinuxコマンド

### 概要

ssh関連（ssh、sftp、scp、ssh-keygenなど）

tar

curl

### tar

tar -xzvf sample.tar.gz -C my\_directory :: 展開

cd /d d:\ :: Dドライブへの移動

.tar.xzを展開する場合

:: 先に7zipでtar.xz → .tarへ変換

tar -xf sample.tar :: 展開

### curl

<http://www.vwnet.jp/Windows/w10/2018050501/LinuxCommandRS4.htm>

## パッケージマネージャー（chocolatey）

インストール

<https://chocolatey.org/install>

インストール用の.ps1スクリプトがある（要管理者権限での実行）

<https://community.chocolatey.org/install.ps1>

公式ページに、ポリシーの変更もしつつダウンロードするコマンドの記述がある

Set-ExecutionPolicy Bypass -Scope Process -Force; [System.Net.ServicePointManager]::SecurityProtocol = [System.Net.ServicePointManager]::SecurityProtocol -bor 3072; iex ((New-Object System.Net.WebClient).DownloadString('https://community.chocolatey.org/install.ps1'))

アップグレード

choco upgrade chocolatey

C:\ProgramData\chocolatey\bin\

上記フォルダにあるものは、ショートカットのようなもので

C:\ProgramData\chocolatey\lib\xxx\tools\xxx.exe

# 追記情報

## delivery optimization の無力化 (20.10.29追加)

delivery optimization とはMicrosoftが（勝手に）個人のパソコンをWindows OSのアップデートサーバーとして使えるようする機能。

無駄な通信が増える上，ローカルのストレージも圧迫するので無効化が望ましい。

* 設定 → 更新とセキュリティ → 配信の最適化 ：他のPCからダウンロードを許可する　をオフに。

更に，念のため　　→ 詳細オプション　で全てのアップロード，ダウンロードにチェックを入れ，全ての制限を5％（最低）にしておく。

但し，Windows Defender をメインのセキュリティソフトとして使っている場合だけはこの機能をオフしない方が良い。毎日ウィルスデータベースを更新しているらしい。

…ところで，他のPCにアップロード許可されるのは本当にOSの更新データだけだろうか。

## Windows 資格情報の追加 (19.02.11追加)

これがないとNASに接続できない。特にNASに接続できなくなった場合以下を確認する。

コントロールパネル → ユーザーアカウント

→ 資格情報マネージャー：Windowsの視覚情報の追加

⇒ 資格情報の管理が表示される。

ファイルサーバー(10.4.1.51)の資格情報がある事を確認する。

Windows Update更新プログラムなどで消去される事があるらしい。ない場合は追加する。

※ユーザー名とパスワードはNASの接続に必要なserverユーザー名。（誕生日がパスワードな物）



それでも接続できない場合：

以下のサービスを起動する

Function Discovery Provider Host

Function Discovery Resource Publication

SSDP Discovery

UPnP Device Host

設定→ネットワークとインターネット→イーサネット→共有の詳細オプションを変更する。ネットワーク探索を有効にする。

# 設定関連

## 最初の設定

### コンピューター（のアイコン）の表示

デスクトップ右クリック→個人設定→テーマ：デスクトップアイコンの設定

※ここからコントロールパネルにも行けるので、早めに表示しておく

※壁紙も変えておく

### 削除の確認メッセージ

ゴミ箱のプロパティ → 削除の確認メッセージを表示する

※レジストリでも可能だが、GUI で変更できなくなるのでやめておく。

### 高速スタートアップ

Win10の通常シャットダウンではOSは完全にはリセットされない。（再起動はリセットされる）　これは高速スタートアップを呼ばれるものを使用している事に起因。

WinXCustomise　というアプリを作ったのでそれを使用する。ついでに起動時のNumLock オンなども設定できるようになっている。

正規のやり方：

コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → 電源オプション → 電源オプションの動作を選択する → ※先に「現在利用可能ではない設定を変更します」

シャットダウン設定：高速スタートアップを有効にする　チェック外す。

※バックグラウンドでOSのUpdate処理がされている。インストールボタンを押す。

## 一般的なOS設定

### イントラネット登録

Win10が社内ファイルサーバーをイントラでなく、インターネットとみなしてしまう。

→ ローカルイントラネットサイトの登録　のバッチファイルを実行する。

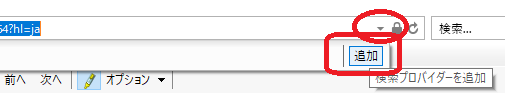
### word, excel

起動するとシリアルを求めてくる。

Microsoft Office Desktop App が白くなる場合：詳細設定→修復orリセットを行う。

### Internet Explorer

Edge は不具合も多いのでこちらを使う。　スタート：Windowsアクセサリ

検索エンジンの変更：

検索バー右下の矢印から「追加」

・Webページ上で Googleウェブ検索を

Internet Explorer に追加。

・設定―アドオンの管理―検索プロバイダー

・新しいタブ：インターネットオプション　全般タブ：タブ

・ダウンロードフォルダ：ボタン→ダウンロードの表示 → オプション

### エクスプローラー

最初に表示されるのをPCにする：表示→オプション　エクスプローラーで開く：PC

### フォトビューアー

白黒印刷の指定などがこちらの方が便利。

※レジストリを変更しないといけない。regファイルを作ってあるのでそれを使用。

### 通知とアクション

設定→システム→通知とアクション

クイックアクションの追加または削除：ネットワーク、設定、表示、接続　のみ

[Windowsへようこそ]の情報を表示：off

### タスクバーの設定

タスクバー右クリック → タスクバーの設定 → システムアイコンのオン/オフの切り替え

表示：時計、音量、ネットワーク、入力インジケーター

・オフにすると右写真の部分に表示されるようになる

・People の表示も消しておく

### タブレットモード無効

設定→システム→タブレットモード→サインイン時の動作：デスクトップモードを使用します

### IME

#### ATOK式編集

IMEボタン右クリック→プロパティ→詳細設定→キー設定　（好みが分かれる）

#### 誤変換記録の通知

IMEボタン右クリック→プロパティ→詳細設定→プライバシー→誤変換の履歴をファイルに保存する　チェックを外す

\HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Microsoft\IME\15.0\IMEJP\MSIME

Key：misconvlogging

型 ：REG\_DWORD（基本設定レジストリに適応済）

値 ：？？

#### 予測変換

IME右クリック → プロパティ → 詳細設定 → 予測入力

予測入力を使用するのチェックボックス

### パフォーマンスオプション

PCを右クリック → プロパティ → システムの詳細設定：詳細設定タブ

効果がわかりにくい項目：

ウィンドウの下に影を表示させる：ウィンドウが重なった時に見分けやすくなる

スクリーン フォントの縁を滑らかにする：無効にすると文字の境界線が若干ざらつく。

### NET3.5

Win10では.NET3.5がプリインストールされていない。必要に応じて有効化。

コントロールパネル → プログラムと機能 → Windows機能の有効化または無効化

**19.02.26追記　結局みんな使うようなので、最初から有効化しておく。**

※ついでに：XPSドキュメントライター　不要なので停止する。

18.10.31 有効化できないPCがある

対策案１

セットアップISOイメージの作成

情報元：https://eijiman.com/windows10-net-framework-35/

１と同じくコマンドプロンプトで gpedit.msc

管理用テンプレート　⇒　システム　⇒　オプションコンポーネントのインストールおよびコンポーネントの修復のための設定を指定する

ラジオボタンを有効→代替ソースのファイルパス　がテキストボックスになっているのでマウントしたISOの\sources\sxs　を直接入力。適用。

コマンドプロンプトでgpupdate /force　その後に有効化する

対策案２

グループポリシー　：ファイル名を指定して実行 → gpedit.msc →

左側：コンピュータの構成：管理用テンプレート → システム →

オプションコンポーネントのインストール…（フォルダではない）→ 開いて：有効 →

WSUSの代わりに…直接ダウンロードする：✔ → 適用 →再度機能の有効化を試す。

### プリンタ

#### ドライバの設定

以下フォルダーに設定用バッチファイル(.cmd) がある

※念のためローカルにコピーする

\\10.4.1.51\一般共有\◆Sサポート\プリンタ接続バッチ

#### スキャン設定

18.10.25 追加

C:\ 直下に scan と言うフォルダを作成 → プロパティ：詳細な共有

このフォルダーを共有する：✔

アクセス許可 → Everyone 変更、読み取りに✔　※ログインユーザーも追加

※フルコントロールはアクセス権の変更などもできてしまうので除外。

コピー機のスキャン設定

コピー機のメニューボタン → 登録／変更 → 宛先表登録（短縮宛先登録）→

表示開始番号 →（青色の状態で）番号入力：1001 → 自分を選択

サーバー名を変更　例） DD2C → DD2CX

詳細情報：

宛先名 ：任意（コピー機に表示される文字列）

転送プロトコル ：SMB

サーバー名 ：PC名（例　DD2CX ）

共有名 ：共有フォルダの名前（例 scan）

ユーザー名、パスワード：上記scanフォルダでアクセスが許可されたユーザー

　　⇒ ログインユーザー名とパスワードをそのまま使えば良い

保存場所 ：空白

※Win10ではSMB1.0が無効になっている場合がある。

コントロールパネル→機能の追加

### Outlook（Win10）

#### アカウント設定

アプリ起動 → メールアドレス入力 →

詳細オプション→ 「…手動で設定」のチェックボックスを✔ → 接続

POP を選択 → アカウントの設定を選択　が表示される。

又は： パスワード入力 → 接続 → で失敗するので、その後「アカウントの設定の変更」をクリック。

サーバーにメッセージのコピーを置く　のチェックを外す。

送受信を止める

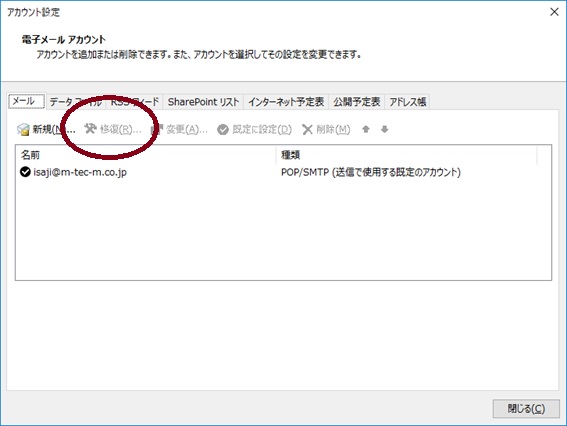
送受信タブ：送受信グループ→送受信グループの定義

次の時間ごとに送受信を実行する　のチェックに外す。**※最後に元に戻す必要がある**

注意事項など：

・パスワードを先に確認 [名前&誕生日] ※八重澤さんに確認

・暗号化（SSL）は送受信共に使用していない

・アカウントが正常に追加　の時に 「Outlook Mobileをスマートフォンにも設定する」というチェックボックスにチェックが入っているので外す。

・再編集：ファイル → アカウントの設定 → アカウント設定 →

メールタブ → アカウント（メールアドレス）をクリック → 修復 （写真参照）→

詳細オプション → 手動で設定を✔ → 修復

## 不要サービス、アプリ

### 不要サービス

バッチファイルを作成した。管理者として実行。

ファイル名：Win10不要サービスの停止\不要サービスの停止.cmd

他はこの辺を参考に自己判断：

<https://nomuinu.net/pc-noservices/>；<https://ygkb.jp/4475>

※Xbox Game Monitoring　はなかなか停止できない　以下を実行

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\xbgm

Key：Start

型 ：REG\_DWORD

値 ：0x04 （def：0x00000003 ）

### ランダム番号を持つサービス

これらのサービスはMicrosoft公式のサービスではあるが，Microsoftも情報をあまり公開していない不審なサービスなので，無効化しても良いと思われる 20.03.25

CDPUserSvc\_XXXXX

MessagingService\_XXXXX

OneSyncSvc\_xxxxxxx

PimIndexMaintenanceSvc\_XXXXX

UnistoreSvc\_XXXXX

User Data Access\_XXXXX

WpnUserService\_XXXXX

### 不要アプリ

アンインストール不可、かつ明らかに不要

Xbox, Grooveミュージック、People、映画＆テレビ、メッセージング

→ powershell のファイルを作成したのでそれを使用。

McAfee ウィルスバスターの項で

※19.05.08 Xbox overlay というアプリが削除できない事案が発生：

コントロールパネル → プログラムと機能 → Windows機能の有効化または無効化

#### Edge

コマンドプロンプトかpowershellで対象ディレクトリに移動

場所C:\Program Files (x86)\Microsoft\Edge\Application\[version]\Installer

（先にファイルエクスプローラーで場所を確認しておくと良い）

例：

cd “C:\Program Files (x86)\Microsoft\Edge\Application\95.0.1020.30\Installer”　:: 移動

.\setup.exe --uninstall --system-level --verbose-logging --force-uninstall　　　　::アンインストール

（参考）<https://atmarkit.itmedia.co.jp/ait/articles/2009/04/news013.html>

#### アンインストールで対応

Microsoft Whiteboard、Network Speed Test、Offilne　Lens、

モバイル通信プラン、楽しもうOffice、天気

好みで選択

・OneDrive：専用ファイルを作ってある

・OneNote：ワードとエクセルの中間みたいなアプリらしい

・Sway ：プレゼンツールらしい

・Mixed Reality：設定→アプリ→アプリと機能　検索や並び替えを…でMixedと入力

接続 ：モニタ、スマホなどとの通信アプリ

Cortana ：使い方のコンセルジュ。WinXP のイルカと類似した機能？

gpedit.msc → コンピューターの構成→管理用テンプレート→ Windowsコンポーネント →検索→Cortana を許可する　ログインしなおす。

マップ

参考）<https://ygkb.jp/471>

## その他OS設定

### Linux Subsystem

スタートを右クリック → アプリと機能 →プログラムと機能 → Windowsの機能の有効化または無効化で「Linux用Windowsサブシステム」を有効化。（名前は少し異なる可能性がある）

スタート → 設定 → 更新とセキュリティ →  → 開発者モード

Microsoft StoreでUbuntuを検索

（情報元）<https://qiita.com/Aruneko/items/c79810b0b015bebf30bb>

### 位置情報

設定 → プライバシー → 位置情報 ※プライバシーは他の項目も見た方が良い

### おすすめ：

設定  → 個人用設定→スタート → おすすめを表示する：オン／オフ

タイムライン

設定 → プライバシー → アクティビティ

ボタンで実行の履歴を見る、というもの。この機能は便利かもしれないので、そのままとする

### Outlook

バックアップファイルを作成（旧PC）

旧PCのメールのデータ、アドレス帳のデータを作成する

Outlook2010（Win7）

メールファイルのエキスポート

ファイル→開く→インポート→ファイルにエキスポート

Outlookデータファイル(.pst) を選択

→エキスポートされた .pst ファイルをファイルサーバーか後述する[共有フォルダに移動](#_PC間のファイル移動)

　Win10のエキスポート

　　　ファイル → 開く/エクスポート → インポート/エクスポート → ファイルにエクスポート(.pst) ※パスワードは任意なので不要。

#### データのインポート（新PC）

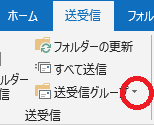
Outlook（Win10）

メールファイルのインポート

ファイル → 開く/エキスポート → インポート/エキスポート → 他のプログラムまたはファイルからのインポート → Outlookデータファイル(.pst)

#### メールの受信設定（新PC）

Outlook はアカウントの設定だけ行って、メール受信を停止している。受信を再開する為の設定を行う。

送受信タブ→

送受信グループ→

送受信グループの定義

⇒ 右写真の画面へ

このグループを受信に含める、次の時間ごとに自動的に送受信を実行する、「Outlook がオフラインの時」のこのグループを受信に含める　の３つに✓

選択的な項目

### タスクバー

cortana タスクバー右クリック→Cortana

### pdf ビューワー

Win10ではpdf標準ソフトがEdge（Webブラウザ）となっている

→PDF上へのコメント挿入などの編集ができない

・PDF-XChange Viewer 又は Foxit Reader がおすすめとの事

・Acrbat DC（重い？）

※更新プログラムKB3135173が適応されていると変更できない？

設定→アプリ→アプリと機能→下の方の「プログラムと機能」→インストールされた更新プログラムを表示 → 項目を右クリック → アンインストール

### アーカイブ解凍

Lhaz, Lhaplus, など

## システムで使うファイルの集約

目的：

・クリーンインストールや引っ越しの際にシステムも移動させる為

・セキュリティの観念から、デフォルトの設定で使用するのは良くない場合がある

### IME 学習ファイル

IMEボタン右クリック → プロパティ → 詳細設定 → 辞書／学習：ユーザー辞書

## 追加設定

### BIOSの起動

Shift を押しながら再起動 → オプションの選択：トラブルシューティング→

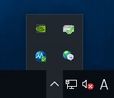
詳細オプション→UEFI ファームウェアの設定

### 復元ポイントの作成

PCのプロパティ → システムの保護 → 下の「…復元ポイントを作成します」：作成

（rstrui → 復元実行）

### タスクバー

タスクバー右クリック→タスクバーの設定

※設定→個人用設定→タスクバー　でも可

→ 真ん中あたりにある　タスクバーに表示するアイコンを設定します

オフにすると非表示部（右の写真参照）に表示されるようになる

### サムネイル表示

既定のアプリを調べる

設定→アプリ→既定のアプリ→ファイルの種類ごとに既定のアプリを選ぶ

それでもサムネイルが表示されない場合は以下の３つをチェック

・フォルダオプション：表示タブ：常にアイコンを表示✔外す

・C:\ 右クリック → プロパティ→ ディスクのクリーンナップ → 縮小表示に✔ → OK

・user\ユーザー名\AppData\Local\IconCash.dbを削除

（C:\Users\mtc170001\AppData\Local\Microsoft\Windows\Explorerの

thumbcache\_\*.dbという情報もある）

### ディスクのクリーンアップ

C:\ のプロパティ → 全般タブ：ディスクのクリーンアップ

※設定 → システム → ストレージ：今すぐ空き容量を増やす　の方が説明が詳細

※配信の最適化：OSのアップデートのローカル・キャッシュ・サーバーとして使われている。消して問題ないので定期的に削除するようにする。

### 配信の最適化

設定→更新とセキュリティ→詳細オプション→配信の最適化→ 他のPCからのダウンロードを許可する

## プログラミング関連

### PATH

PCを右クリック→システムの詳細設定→環境変数

# その他

## ログオフ

スタートを右クリック → シャットダウンまたはサインアウト → サインアウト

## OSの設定について

Win10 では「設定」と「コントロールパネル」がある

## Sets

エクスプローラーをタブ表示する機能、Setsが近々搭載されるらしい。18.10.23

設定 → システム → マルチタスク → アプリのタブ　※旧バージョンでの設定場所

## スタートメニュー、送るの編集

（共通）C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs

（個人）C:\Users\[ユーザー名]\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs

（送る）shell:sendto を実行

## タスクスケジューラ

### 概要

### チュートリアル

１　設定画面を開く

スタート > Windows管理ツール > タスクスケジューラ

（ファイル名を指定して実行 > taskschd.mscでも良い）

２　設定

「全般」タブ

「タスク」のメタデータを記述

名前　説明　あたりを記述しておく

「トリガ―」タブ

→ 新規

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 設定内容 | 概要 |
| タスクの開始 | スケジュールに従う | 実行トリガ |
| 設定 | 毎日 | 実行タイプ |
| 開始（オプション）（T） | 実行ディレクトリを文字列で指定 |  |
| 繰り返し間隔 | チェックして「5分間」 |  |

「操作」

ここに実行内容を書き込む

３　テスト実行

実行テスト

右側の「操作」に  というのがあるので、これで実行テストできる。

### 詳細

補足

基本タスクの作成 設定ウィザードに従って作成。

タスクの作成 詳細設定を行える。

⇒作成されるものは同じらしい。

編集

作成後にタスクを右クリック > プロパティ、またはタスクをダブルクリックで編集可能。

「トリガ―」タブ 実行条件（時間）関連

「操作」タブ 実行されるスクリプト関連

具体例

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 概要 | １時間ごとに１回 | １日に１回 | １日に２回 |  |
|  | 設定：1回  繰り返し間隔にチェック：1時間  継続時間：無期限 | 設定：毎日  「開始」で時間設定間隔：１日 |  |  |

開始（オプション）（T）:

**実行ディレクトリを文字列で指定する**らしい。【初見では分からないと思う】

ログ

設定画面の「履歴」タブで確認できるが、スクリプトでエラーを吐こうが「成功」とみなされる事が多い。

補足

・cmdなどで実行する際、窓が表示されてしまうが、VBScriptを作らないと完全バックグラウンドにはならないらしい。<https://qiita.com/trumpet_developer/items/cf7b8cb0981bdcab6c20>

⇒ powershellでも&（バックグラウンドの糖衣構文）が使えるらしい。≒Start-Job -ScriptBlock {*command*}

⇒「 ユーザーがログインしているかどうかにかかわらず実行する」にするとバックグラウンドで実行。

### トラブルシューティング

#### pythonが実行できない

powershell を経由するとできる為、スクリプトを用意する

[ batch.ps1 ]（例）

.\venv\Scripts\python.exe main.py

#### トースト通知が表示されない

バックグラウンド処理だと表示されないらしい

「 ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」×

「 ユーザーがログオンしているときのみ実行する」〇

## 権限(chmod)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| Winコマンド | Linux |  |
| takeown | chown | 所有者変更 |
| icacls | chmod | 権限変更 |

すっごいめんどくさそう。やめ。2022-04-18

## リモートデスクトップ

結果としては、ログイン先のPCのユーザーアカウントを１つ増やし（ログイン元のアカウント）、ログイン先のPCにログインするような形になる。

条件

・OSがWin7以降。Win10ならPro/Enterprise。

・対象のPCの電源がオン。

・対象のPCとネットワークでつながっている。（VPNも可）

必要な情報：

接続先のPCの名前（NetBIOS名）とログインパスワード

ホスト側設定：

PCのプロパティ：リモートの設定　リモート接続を許可する

（コンパネ → システムとセキュリティ → システム：リモート）

ユーザーの選択：でユーザーを追加

クライアント側設定：

スタート → Windowsアクセサリ → リモートデスクトップ接続

必要なサービス？：未確認

Remote Desktop Services

ファイアウォール：

自動的に設定されるらしいが、確認。リモートデスクトップのポートはTCP 3389。

接続：

Windowsアクセサリ → リモートデスクトップ接続

Web経由の場合はグローバルIPを入力。（ルーターでポートマッピングの設定が必要）

内部ネットワークの場合はPC名。（又はIPアドレスでも可）

あとは普通にユーザー名とパスを入れる。

# トラブルシューティング

## ファイルサーバー上のOfficeファイルのロック解除

ファイルサーバー上のOfficeファイルを開くと、以下の場所にロックファイルが作成される

C:\Users\[ユーザー名] \AppData\Local\Packages\Microsoft.Office.Desktop\_\*\*\*\*\*\*\LocalCache\Local\Microsoft\Office\16.0

※環境によってフォルダ名は若干異なるのでAppData\Local でOfficeFileCacheフォルダを検索した方が早い。

# リモートアシスト

Win + R → msra

ヘルパーの招待

•A 電子メール、B：招待状をファイルとして保存

メールなどの方法で（or添付ファイルとして）招待状ファイルを送信

• Ｃ：［簡単接続を利用する］ピアツーピア接続が有効である必要がある

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip6\Parameters /v DisabledComponents

・ヘルプ要求側がヘルプ対応側にパスワードを伝える。

・ヘルプ対応側はパスワードを入力。

・ヘルプ要求側が YesNo ウィンドウの「はい」をクリック → 対応側にVirtual Machine が立ち上がる

・ヘルプ応答側が「制御の要求」

・上と同じく、ヘルプ要求側が「はい」をクリック

共有の停止　をクリックすると制御は開放される。

SMS（チャット）の送信も可能。

# IoT Enterprise

## 概要

メモ

・初期状態ではMicrosoft StoreやEdgeなどが未インストール

・意外とCPU負荷は高い

・「ロックダウン」機能が魅力的？ただしかなりめんどくさいらしい。

・シンクラ用設定をする事もできる（らしい）

注意点

排熱が上手でない機器の場合熱で止まる事があるらしい。

補足

Qiitaなどでの情報が極めて少ない。恐らく、ソフトウェアエンジニアでIoT Enterprise触っている人が少ない。

## 機能

### ロックダウン

概要

ストレージへの書き込み禁止や書き戻し（統合書き込みフィルタ）、USBデバイスへのアクセス制限など、事前に設定しておいた禁止ルールの有効化ができる。

操作

コントロールパネル（＞プログラムのアンインストール）＞Windowsの機能の有効化または無効化＞Device Lockdown　で有効化。

### Shell Launcher

### AppLocker

定のプログラムを実行禁止にしたり、実行可能にする機能。

（比較）グループ・ポリシーの「ソフトウェアの制限のポリシー」

## 資料

<https://www.wannko.net/windows10/etc/lock.html>

# メモ

## ネットワークのAdministrator について

ローカル・ネットワークの管理者の事。ネットワーク内のコンピュータの、セキュリティ項目を含む全ての設定の変更が可能。ローカル管理者とドメイン管理者に分かれる。

## Win10でのPATH

コントロールパネル → ユーザーアカウント → 環境変数の変更

システム：そのPCを使う人全員　ユーザー：そのユーザーのみ

## ドメインユーザー

同ネットワーク内の同ドメイン内に含まれる全てのコンピュータにログイン可能。

## 管理者としてcmd　を実行

ファイル名を指定して実行　でcmd → Ctrl + Shift + Enter

セキュリティ：

・PCの電源をまめに切る

・ポート番号をデフォルトのTCP3389から変えておく

・パスワードを暗号性の高いものに変えておく

ポータブルアプリ

<https://www.gigafree.net/faq/PortableApps/>